

## 令和6年度日高山脈襟裳十勝国立公園協議会第2回幹事会 議事要旨

■ 日時:令和6年12月20日(金)14:15~15:30

■ 場所:平取町中央公民館(WEB 会議併用)

### ■ 議事概要

#### 1. 開会

2. 議事(司会:北海道地方環境事務所国立公園課長 尼子)

#### (1) 審議事項

##### 1) 日高山脈襟裳十勝国立公園ビジョン(素案)について

・資料1-1、1-2について、事務局より説明。

前回提示した骨子案に対するご意見を基に文章化している。幹事会前に意見照会した結果は反映されていない。赤字で書かれているものは、今後の作成方針であり、最終段階のビジョンには記載されないものである。重複している部分があるので、書きぶりについてはもう少し精査をしていく。

<質疑等> ※→:事務局

○ 地元のアイヌと密接に関係する地域。日高山脈は、日高管内それから帯広側も含めて、私たちアイヌが生活していた基盤。北海道の大地とアイヌ民族は密接に関係してきており、それをビジョン・基本理念に反映いただくことが非常に重要。概要でアイヌについて触れられているが、7ページの国立公園としての基本理念にも、アイヌに関わるような表現が1つ加われば良い。

○ 国立公園の話には、私たちアイヌ関係者は思うところがあって、ぜひこういう場所で発言機会をいただければと思っていた。アイヌ神謡集には、「この昔この広い北海道は、私たち先祖の自由の天地でありました。天真爛漫な稚児のように、美しい大自然に抱擁されてのんびりと楽しく生活していた彼等は、真に自然の寵児、なんという幸福な人だちであったでしょう」とある。この場に私以外アイヌの人はいないが、アイヌがいない中で、アイヌの議論をしている。アイヌはここ何百年ずっと、周りの人たちに、そういう形でずっと無視され続けてきている。そういうことをきちっと頭に入れて議論していただきたい。アイヌで参議院議員になった萱野先生も、同じことを二風谷ダム平取弾劾裁判の時にすごく嘆いていた。1つも話を聞いてくれない、アイヌの話を聞こうとしない。なんでなんだろう。そういう意味では、こういう場で、これから将来、私たちアイヌも思想もこれから育っていく中で、自然というのはアイヌにとっては大変重要な要素の1つで、それを国の制度の中に縛り付けていくわけだから、ぜひともそういうことを頭に置いて、進めていただきたいというのが、まず1つ目の思い。北海道アイヌ協会の理事として言わせていただいた。

また、平取アイヌ協会の会長として発言したい。日高山脈襟裳十勝国立公園で1番

高い山である幌尻は平取町もかかっている。沙流川流域のアイヌのことをサルンクルと言うが、サルンクルにとって幌尻は大変重要な山で、数えきれないぐらいの言い伝えがある。配布した資料には、3つほど伝承を書いている。それぐらい大切な山。今日は二風谷で現地視察をいただいて、私たちのチセも見ていただいたが、チセの立て方1つとっても幌尻が関わっている。神様が入ってくる窓、ノルンプエアラというが、サルンクルの場合は必ず幌尻に向けて窓をつけるという風になっている。それくらい幌尻という山は、特にサルンクルにとっては切っても切れない山だ。北海道にある他の国立公園でも、そういうことはあると思うが、特にこの平取にある幌尻に関しては、言い伝えがたくさん残っていて、北海道のアイヌの大体6～7割が沙流川流域と鷗川流域に住んでいる。そういう意味で、この沙流川のサルンクルが大事にしている幌尻を抜きにして、アイヌと幌尻の関係を抜きにして、国立公園の話は進まないのではないかと、進めてもらいたくないと、思っている。今から5年前にアイヌ文化振興法が改正されて新法ができたが、アイヌの人たちが誇りに思って生きていける、そういう法律ということになっている。国交省も文化庁も林野庁も、新法に則った形でアイヌに関わってきていただいていると思うので、ぜひとも環境省についても、そういう新しい法律、それは国が作った法律だから、アイヌを無視した形の国立公園の作り方ではなくて、きちっと考えていただきたい。今日初めて来たので、先ほどの説明を聞いて思ったことを発言したが、ぜひとも今言ったことを頭に置いて、話を進めていって欲しい。

○ 資料1-2の様々な方々の意見は反映されていない原稿という理解で良いか。  
→作業が間に合わず申し訳ない。いただいたご意見を今後事務局で反映していく。各機関から、記載意図の説明等ご意見があればいただきたい。

○ 書いていることは良いことが多いが、繰り返しが多くなって、長すぎるのではないか。大雪山国立公園のビジョン案を改めて見たが、そこの売り、なぜ国立公園になっているのかを示すと良いのではないか。日高山脈襟裳十勝国立公園は、日本最大の国立公園であり、日本最大の原生的自然環境であるといったようなところが売りであって、それに色々なことが付随していると思う。その膨らませ方に違和感が残る部分があるので、研究していったら良いと思う。

誰に対してこれを作っているのか。誰が読むのか。次の世代の若い方たちにぜひ読んでほしいと思っている。中身がよくわかるものであってほしい。

ビジネス用語、業界用語的なものが盛んに出てくる。日本語として置き換えることは十分可能と思う。

主体という言葉が盛んに出てくる。主体とは何か。主体と客体の哲学的用語の主体では全然ない。要は、個人や団体ということなので、個人・団体に良いのではないか。

森里川海は、この国立公園でこの言葉を持ってくるのは強引。十勝だと、里は十勝平野。大事ではあるが、ここの公園とどう関係があるのか。色々な問題点を引き起こ

してくると思う。ただ単純に海から鮭が昇ってきてというようなことあれば、そう書けばいい。1つの言葉でまとめてしまうところが強引すぎる。

○ 長いということ、誰が読むのかということが重要なポイントだと思っている。

今回議論するビジョンのようなものに私が初めて関わったのは、利尻礼文サロベツ国立公園の将来目標。おそらく日本の国立公園で初のことで、管理計画書を改訂した時に作った。その時に大事にしたのが、中学生が読んで分かりやすい内容にすること。その時は地域住民からも意見を集めることもしたので、その点を非常に重視した。

もう1つ重要なのは、ここにしかないものは何かということ。木村会長がおっしゃったように、この公園の特徴はなんだろうということ。原生的な自然や登山、それにアイヌ文化。ここにしかないもの、他の国立公園にないものというのを、どれだけビジョンで語れるかが大事だと思う。

ここで実際に案を見ると、重複も多くあるが、ビジョンのメインパーツはこれで良いだろう。管理運営計画を作るときには、課題とか、時代の要請とかも、それほど分量は割けないかもしれないが、概要は書ける。

ただ、この文書は、具体的なビジョンとなる6番を最も目立つようにしなければいけないが、前半が長く、目立たない。基本理念はスローガンとちょっとした説明にまとめてしまい、6番がちゃんとしていた方がいい。そこで、保護に関する事項、利用に関する事項、管理運営に関する事項を説明する。ただし、見出しがこれでは読まないから、次に書いてある部分を見出しとして出すのが良いのではないか。見出しでもっと読んでもらえるように、伝わるように整理をした方が読んでいただけるようになる。

以前の経験では、ビジョンの項目を先に決めてしまって、そこに出てくる言葉を繋ぎ合わせてテーマを作った。テーマは自ずと出てくるとも言える。最終的にどこにでもあのようなテーマになってしまったという反省もあるが、こういうやり方もある。

全体に、もう少し中身を読んでもらえるような形にして提示すると良い。

→ 事務局で反映したものを近日中にお出しできるようにしたい。日高山脈襟裳十勝国立公園にしかないものやキーワードで、スローガンとなるビジョンに入れるべきもの、入れるべきじゃないものに関してのご意見いただければと思っている。

○ ロードマップがどうなっているのかを教えてください。

スローガンでアピールするのは自然環境が中心になってくるだろう。例えば南アルプスで書いてあるようなことは、日高山脈に似ていると素直に思える。そういう意味では、それをどうやって、この場合最後の継承という言葉を使っているが、それが多分利用だとか管理だとかそういうものを含んだ形として、そこを加えていて、でも訴える時には日高山脈の特徴みたいなことを訴えていくのが一番素直だと思う。特に愛甲先生の言う通り、保護という風に言われてしまうと、やっぱりこの原生的な自然と書いてある、このゴシックで書いてある方がピンと来るし、だからそういう名前、そういうタイトル付けにしていきたい。その中で出てくる特徴をキャッチフレーズとするの

が一番素直。

管理のところは、本当に最後の最後の、それをどうしたいということに繋げていくような、一言ぐらいで良いのではないか。

時代の要請は必須か。この国立公園と関連したことが書かれているかという、そうでもない。時代の要請とは誰が要請しているのかと色々悩み、各省庁が要請していることを書くものなのかとも悩んだ。必要かどうかも含めて検討された方が良い。

→ ロードマップについて、次回の協議会を6~7月を想定している。その時には案を取ったビジョンとして確定していただくというスケジュール。幹事会は今日が2回目で、2月に第3回を行う。4~5月にもう1回行って、そこで固めたいと思っている。

○ 幹事会が2回ある。色々な団体の意見を全て反映したらうまくまとまらないかもしれないので、そこは理由付けをして、ここはこういうことで採用して、ここはこういうことで違う形で書いていますという回答的なものも含めて事務局で考えていただいて。会議だと時間制限があるので、その原稿を皆さんに送って、ご意見を募って議論をまとめていけば良いのではないか。

→ 特にビジョン検討の進め方に決まりはないため、アドバイス踏まえて考えたい。

→ 骨子案に時代の要請という項目があったので今回文章化したが、皆さんからご意見をたくさんいただいたように、重複した内容が多く、長すぎるので、もう一度全体を精査し、誰にでも、中学生でもわかるような、わかりやすい言葉となるよう、もう一度書き直したい。

→ 本日いただいたご意見と、既にいただいているご意見を参考に、事務局で案を修正して、取りまとめて提示できるように作業を進める。

#### 【その他】

○ あらかじめ各構成員に事務局原案を提示し、各構成員から意見を集め、それを踏まえた事務局案を元に実務調整した方が合理的な会議運営になる。事務局はなるべく早く資料を提示していただきたい。

○ 組織内での意見集約が必要であるため、提出期限が1週間では無理がある。2週間は確保してほしい。事務局はもっとスタッフを増やしたら良いのではないのか。

## (2)報告事項

1)日高山脈登山道適正利用普及部会(仮称)準備会合の開催報告について

・資料2について、事務局より説明。

本部会は、協議会及び前回の幹事会において増加する登山客に対して喫緊の対応等が必要との提起がされたことを受け、設置に向けた議論を進めてきた。先般の準備会合では、①部会を設置し、②課題と対策を検討していくことについて賛同が得られたが、規約に対していくつかご意見をいただいたので、事務局で修正案を作成した後、幹事会構成員宛に意見照会をする。合意が得られたら、協議会総会の決定(書面審

議)を経て部会を設置、開催する予定。

## 2)各構成員からの情報提供

- ・資料北海道地方環境事務所より説明。
- ・資料3-1、3-2、3-3について、日高北部森林管理署より説明。
- ・資料3-4について、北海道運輸局より説明。
- ・資料3-5について、日高町より説明。
- ・資料3-6について、平取町より説明。

## 3.その他

### <ゼロカーボンパークについて>

○ ゼロカーボンパークは、市町村単独で申請することも可能だが、複数の市町村が合同で申請することも可能と聞いている。日高管内7町は合同で申請することについておおむね合意できているところ。十勝側も含めて全13市町村が合同で申請できるのが望ましいと考えている。

→ ゼロカーボンパーク登録条件の1つが、ゼロカーボンシティ宣言済み又は宣言見込みであること。この準備ができていれば、北海道地方環境事務所の担当につなぐ。

○ エリア内での利用施設の取組は必須か。

→ 必須だが、公園事業施設でなければならないとはされていない。

○ 公園事業施設以外での国立公園区域内での取組としては、例えばどういうものがありうるのか。

→ ビジターセンターの屋根置き太陽光などの取組が多い。他地域の事例を調べて、後でお答えしたい。

### <景観計画について>

○ 色々なところから眺めることができる山の魅力を、この日高山脈の1つの大きな特徴だと思っている。そういった山をいつまでも眺めることができる景観を守るということも、この地域が1つ目指さなければいけないところだと思っている。北海道は景観行政団体になっていて、平取町はすでに景観行政団体になっていただいているが、まだなっていないところもある。例えば羊蹄山は、取り巻いている市町村が合同で協議会を作って、北海道の景観計画が対象としている区域より少しだけ厳しい設定をして、羊蹄山への眺望を遮らないようにしようという目標を掲げたりしている。この日高山脈の景観をどういう風に守っていくのかということは、国立公園区域外での努力ということも重要だと思う。

→ 御指摘のとおり、視点場は、国立公園に限るものではないと思っている。

## 4.閉会

次回は2月19日に開催予定。